

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(令和2年度事業分)

1 施設の概要

施設名	山梨県立八ヶ岳牧場	所管課	農政部 畜産課
所在地	本場:北杜市小淵沢町大平10061 天女山分場:北杜市大泉町西井出 8240-1	設置年月日 (改築年月日等)	昭和43年4月1日
管理方式	公益財団法人山梨県子牛育成協会		
設置根拠 (法律、条例等)	山梨県立八ヶ岳牧場設置及び管理条例		
設置目的	農家家畜を受託放牧するとともに、県有牛を改良増殖し繁殖牛・肥育素牛を供給し、もって本県の畜産振興に資することを目的とする。		
主な施設内容 (定員等)	<ul style="list-style-type: none"> ○敷地面積 約583ha ○建物延面積6,202.67㎡ ○建物の構造 RC、鉄骨造 ○建物の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・八ヶ岳牧場看視舎 RC 250㎡ ・避難舎 鉄骨造 918㎡ ・分娩・衛生舎棟 389.67㎡ ・畜舎 鉄骨造 772.8㎡ ・育成牛舎 鉄骨造 581㎡ ・家畜排泄物処理施設 鉄骨造 1,811.2㎡ ・育成牛舎 鉄骨造 1,080㎡ ・飼料庫 400㎡ ○その他施設 <ul style="list-style-type: none"> ・草地:331ha(採草地77ha、放牧地254ha) 		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> (1)利用の承認に関する業務 (2)施設及び設備器具の維持保全に関する業務 (3)家畜の飼養管理及び改良増殖に関する業務 (4)牧草の栽培に関する業務 (5)家畜排せつ物のたい肥化に関する業務 		

2 類似施設・近隣施設

名称 施設内容 利用状況等	
---------------------	--

3 利用状況

単位:頭、%

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)
利用 頭 数	受託頭数(延べ頭数)	124,083	116,917	109,549	129,800
	利用頭数合計	124,083	116,917	109,549	
	目標値	120,000	120,000	120,000	142,620
目標値設定の考 え方及びその理由	過去5年間の平均受託頭数で設定				
対平成30年度比		94.2%	88.3%		
利用率	340.0頭	320.3頭	300.1頭	355.6頭	

4 指定管理業務の収支状況

単位:円、%

		令和元年度 (実績値)	令和2年度 (計画値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (計画値)
収 入	施設利用料	45,086,110	45,644,000	42,592,830	52,382,000
	指定管理者委託料	191,182,000	196,713,000	196,713,000	193,615,000
	その他				
	収入合計(A)	236,268,110	242,357,000	239,305,830	245,997,000
支 出	人件費	133,082,141	142,090,000	133,392,990	143,976,000
	県への納付金				
	管理運営費	91,789,486	100,267,000	93,044,123	102,021,000
	うち外部委託費(B)	3,074,272	2,182,000	3,146,855	2,427,000
支出合計(C)	224,871,627	242,357,000	226,437,113	245,997,000	
収支差額(A-C)	11,396,483		12,868,717		
外部委託比率(B÷C)	1.4%	0.9%	1.4%	1.0%	
利用者一人当たりの経費	1,635.2	1,639.3	1,795.7		

5 利用者満足度(アンケート様式は別添のとおり)

実施方法等	実施時期: 令和3年2月～3月 実施方法: 令和2年度の預託利用者および売却牛と堆肥の購入者へのアンケート(聞き取り・郵便) 回答数: 49名
--------------	---

単位: %

調査項目	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
家畜の受託に対する満足度	99.2%	0.8%		
県有家畜の売却に対する満足度	92.1%	7.9%		
たい肥の売却に対する満足度	80.2%	18.1%	1.6%	
八ヶ岳牧場の事業に対する満足度	81.1%	14.7%	4.2%	
施設全般の満足度	88.9%	11.1%		

利用者の意見	<p>【家畜の受託】 ・冬期の預託牛の受け入れ頭数を増やしてほしい。繁殖牛として育成する子牛は離乳後から預けたい。年間を通して、分娩2カ月前まで預かってほしい。</p> <p>【県有家畜の売却】 ・ヨーネ病が清浄化し、従来どおり妊娠雌牛の売却を希望する。売却の成績が良いので、売却頭数を増やしてほしい。</p> <p>【たい肥の売却】 ・良質で臭いもなく満足している。畑まで運搬してもらえるので感謝している。</p>
利用者の意見への対応	<p>【家畜の受託】 ・新しく完成した牛舎で、6カ月月齢以下の子牛を受け入れるとともに、年間を通じて受託頭数を増やして利用者の要望に応じていく。</p> <p>【県有家畜の売却】 ・売却頭数増頭に向け、家畜伝染病に対する衛生対策を徹底し、ヨーネ病の清浄化農場への早期復帰に努める。また、血統や育種価を重視し県有牛の改良を進め、更に優良な子牛の生産に努めていく。家畜改良や飼料管理に関する情報提供や技術の共有を図り、県全域での管理技術の向上を図っていく。</p> <p>【たい肥の売却】 ・高品質なたい肥の生産並びに販路開拓に向けPRを図っていく。</p>

6 評価結果

	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	施設、備品等の保全管理を適切に実施するよう努めた。車輛、農機具の経年劣化による故障が効率的な業務執行の妨げになっているので今後計画的更新が必要である。	引き続き適切な保全管理に努めること。 老朽施設、備品等の更新などについて今後検討していきたい。 また、災害対応について職員意識の一層の向上に努め、利用家畜の安全確保を図ること。
運営業務	県内飼養戸数・頭数の減少傾向の中で、預託した家畜のほとんどが、人工受精技術で受胎させてもらえることが評価され利用者の多くはリピーターとなっている。更に新規利用者へのPRを行うとともに、家畜伝染病まん延防止対策を強化し、制限している冬期受託頭数を通常どおりに戻せるよう衛生管理と検査の徹底を図る。	家畜伝染病の影響もあり、受託頭数は目標達成に至らなかったが、衛生対策と患畜の早期摘発の徹底が行われていた。 受託家畜への人工授精受胎率がかなり高いことは大変評価できる。引き続き、人工授精技術の更なる向上に努めること。 また、良質な堆肥生産も安定的に行っており、高く評価できる。今後も安定生産・販売に努めること。
利用状況	積極的な中途入牧の受入等により、利用推進に努めたが、家畜伝染病(ヨーネ病)の発生により利用頭数を制限せざるを得ず、また利用農家でも家畜伝染病(ヨーネ病)が発生し、発生農家は牧場に家畜を預けられないため、受託頭数が減り、目標達成に至らなかった。	施設内の衛生対策を徹底し、清浄化農場への早期復帰に努めること。 また、新牛舎による子牛の受入が開始されるため、新規利用者を含めPR活動により利用頭数増頭に努めること。
収支状況	家畜伝染病発生の影響により、利用料収入は昨年度を下回った。 自給粗飼料の安定確保により乾牧草などの飼料費が節減されたことや、肥料散布体系の見直しにより肥料購入経費等の原材料費が節減された。	牧場及び利用農家での家畜伝染病発生により、利用料収入は昨年度を下回ったが、自給粗飼料の安定確保による飼料費の削減や、適切な人員配置等により計画より支出が抑えられた。 今後は、利用料収入確保のため、ヨーネ病清浄化農場への早期復帰に向けた衛生管理の徹底を図り、また、新牛舎による子牛の受入のPR活動により利用頭数増頭に努めること。
自主事業		
利用者満足度	牧場利用者の全ての人が、「満足」、「どちらかといえば満足」と回答しており、満足度は非常に高い。	利用者のほとんどから高い満足度が得られていることは、高く評価できる。 今後も継続して、利用者満足度の維持向上に努めること。

<p>運営目標の達成状況</p>	<p>牧場利用農家においてヨーネ病が発生し、発生農家の家畜は病気の清浄化が図られるまでは牧場に家畜を預けられないため、受託頭数が減少したことや、牧場のヨーネ病対策のため冬期間の受託頭数の制限をしたことにより、農家の年間受託延べ頭数は目標(120,000頭)を下回った。</p>
<p>施設所管課による総合的な評価及び指導事項</p>	<p>各種業務は適切に実施されており、利用者からも高い満足度を得ている。 家畜の年間受託延べ頭数については、施設内や預託希望農家における家畜伝染病発生が影響し、目標頭数を下回った。今後、患畜の早期発見や衛生対策を徹底することでヨーネ病清浄化農場への早期復帰に取り組むこと。 引き続き、飼養管理技術の向上や未利用者へのPRに努め、受託頭数の確保を図ること。また、利用者の要望に応えながら、家畜受託、県有牛の生産、堆肥生産等に努めること。</p>
<p>施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況</p>	<p>飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、ヨーネ病清浄化農場に向けて取り組むとともに、各業務を適切に行った。 夏期預託の受託頭数を増頭させることにより、受託延べ頭数の確保に努めた。 県有牛の改良や優良子牛の生産については、性選別精液や受精卵移植の活用など繁殖技術や飼養管理技術の向上を図り、利用者のニーズにあったサービスを提供することで、更なる満足度の向上に努めた。</p>

7 管理体制(組織図)

令和2年4月1日現在

